

“行動する”ことは“トクベツなこと”なんかじゃない ～映画「バレンタイン一揆」上映会×出演者によるトーク セッションinつくば～(12067A)

くわばら みき
桑原 未来 (国際総合学類 2年)



このイベントのはじまり

「バレンタインデーに、本当に愛のあるチョコレートを」日本の普通の女の子3人がアフリカのガーナで出会ったのは、カカオ農園で働かされ、学校に通うこともできない「児童労働」という現実。

バレンタインデーに、フェアトレードで作られた、本当に愛のあるチョコレートを日本のみんなに選んでほしい、という想いを胸に、小さな一歩を踏み出した3人の女の子が主人公のドキュメンタリー映画が「バレンタイン一揆」です。

バレンタインの時期だからこそ、なかなか知る機会のない、児童労働・フェアトレードについて、もっと多くの人に知ってほしい。そして、行動することは、だれにでもできる、決して特別なことではないと気づききっかけになってほしい。そんな想いを伝えたい!と思い、「行動する」ことは“トクベツなこと”なんかじゃないをテーマに動き出したのが、映画「バレンタイン一揆」上映会inつくばのはじまりでした。

イベント当日まで

一緒にやろう!と言ってくれた友人とまず企画書を作り、12月の頭にメンバーを集めるための説明会を開きました。

運営メンバー19人中14人が1年生という運営チームでしたが、メンバー一人ひとりが自分の経験を活かしてアイデアや意見をどんどん出してくれたため、ミーティングを重ねるごとにイベントの内容がより具体的に、そしてわくわくするものになっていきました。さらになんと、メンバーのついで、映画出演者3人のうち2人がイベント当日つくばに来ることに!

また、「フェアトレードって、私たちも実際よく知らないよね!」ということで行った運営メンバー対象のフェアトレード勉強会から、授業前宣伝、学校や地域への広報、イベントのコンテンツ内容の話し合い…イベント当日までの2ヶ月はあっという間に過ぎていきました。

バレンタインデーに近い、イベント当日の2月9日。まず映画「バレンタイン一揆」を観て、その後映画出演者である梅田麻穂さん、志賀アリカさんによるパネルディスカッションを行いました。実際にフェアトレードチョコを食べてみる時間では、フェアトレードチョコとその説明を書いたメンバー手作りのカカオのしおりを配りました。

その後の会場全体のワークショップでは、映画やトークセッションを通して感じた自分の夢、そしてその夢をかなえるために何をしたいか、そんな想いを

参加者にカードへ書いてもらいました。カードに書いたものをシェアしてもらう時間では、来場者・運営メンバーの夢や想いを共有できて、とても素敵な時間になりました。

イベント後、2月14日のバレンタインデーには、ワークショップで参加者それぞれが書いたカードを他の参加者とシェアできるようにという願いから、了解を得た方のカードを撮影し、その写真を掲載したfacebookのアルバムをつくりました。

多くの参加者から、「参加してよかった」「自分も何か行動してみようと思った」という感想や、運営メンバーからも「やってよかった」「もっと多くの人に伝えたい!」という声がありました。イベント後、実際に自分でやりたい企画をたてて、動き出しているメンバーもいます。

おわりに

私がこのイベントを通じて感じたことは、「行動する」ことは“トクベツなこと”なんかじゃない」「自分の感じたこと、思っていること、やりたいことを、まずは誰かに伝えてみる」の2つです。

「バレンタイン一揆」の上映会をしたい!と初めに考えたとき、私は今までこういったイベントの企画・運営をしたことはないし、やっぱりこういうことのできるのってなんか自分とちがう特別な人なんじゃない?とっていました。でも、勇気を出してやりたいことを話してみたら、思った以上に周りの人が応援してくれて、自分が考えていた以上の素敵なイベントになりました。

ほんの小さなきっかけと勇気と支えてくれる仲間がいれば、きっとなんだってできる。自分のやりたいことを、まずは周りの人に伝えてみてください。そしてぜひ、勇気をもって、今しかできないやりたいことにチャレンジしてみてください。

この企画を行っていく中でお世話になったT-ACT、そして筑波大学には、たくさんのチャレンジの機会と素敵な仲間がいます。

このイベントが、多くの人にとって自分のやりたいことへの第一歩を踏み出すきっかけになれば幸いです。



夢を書いたカードと一緒に